

デルタマスに咲く花

インドネシア巨大都市開発物語



双日株式会社

双日はインドネシアで
世界最大級の
LNG導入プロジェクトを
成功させ
日本のエネルギー供給に貢献

インドネシアの輸出第一位は
原油・ガス！双日は
これまで石炭の開発・輸出
石油化学プロジェクト
自動車、合成樹脂、
繊維・小麦、木材など
様々な商品を取扱い
インドネシアと
日本の架け橋としての
役割を果たしてきた

この始まりは
1996年ー…

ここはジャカルタ郊外
37kmの場所ー

デルタマスシティ開発地

ここで…
巨大な都市づくりを
したい…だって？

そうだ…！

インドネシア財閥
シナルマスグループ経営者

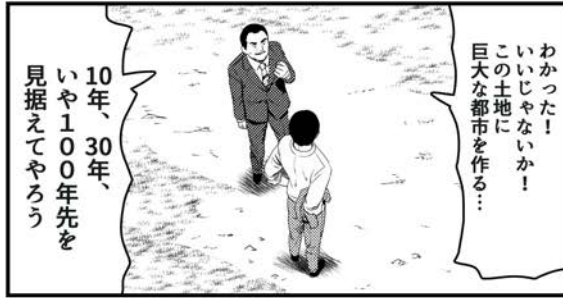
双日：鷹山

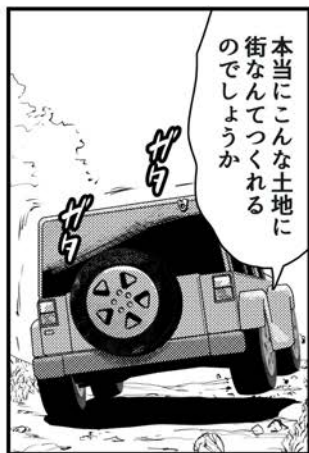
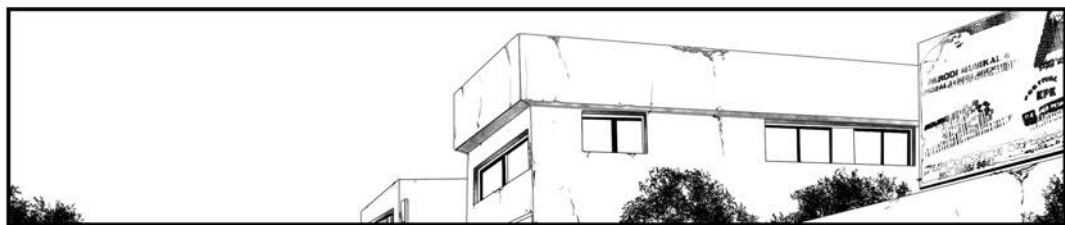
この…

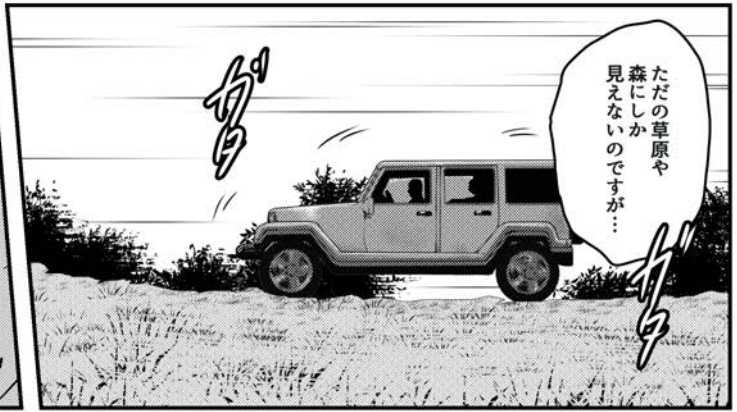
確かに今は何も無い
野原だ…だが

私は確信しているんだ…
この国はもつと発展し
人々が豊かになる
はずだ…と！

なにもない…
野原でか…？







ただの草原や
森にしか
見えないのですが…

か
か

か
か



そんな開発を
してみせる

山々や田畑しかない
この土地を
25万人が住む街に
変えてみせるぞ!



今は貧しい人々の生活も
この国の経済成長とともに
必ず豊かになる

一般市民の生活水準が上がり
将来このデルタマスにも
多くの人々が
住むようになってくれる

だがその翌年
1997年7月
タイから始まった通貨危機が
インドネシアにも波及
通貨ルピアは5/6分の1に暴落した

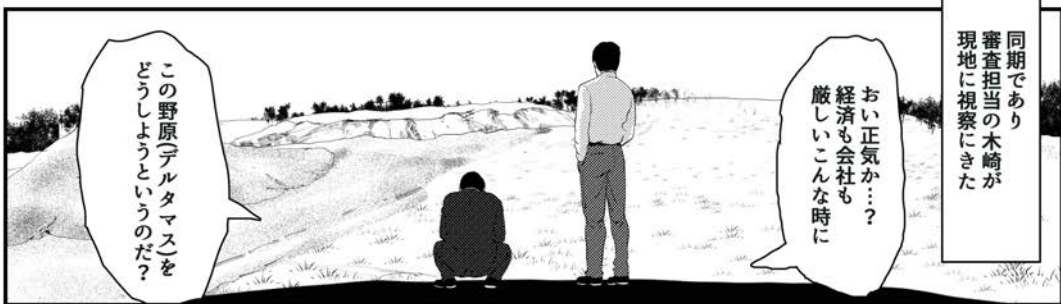
1998年5月には暴動が勃発
スハルト政権は崩壊
多くの企業がインドネシアから撤退した
このアジア通貨危機は
日本経済にも深刻な打撃を与えた

この経済危機は
鷹山が思い描いていた
デルタマス都市計画の予定を
大きく狂わせることとなる…

同期であり
審査担当の木崎が
現地に視察にきた

おい正気か…？
経済も会社も
厳しいこんな時に

この野原デルタマスを
どうしようというのだ？



なあ木崎…俺は
インドネシアの
ポテンシャルを
信じてるんだ…！

小麦は
生産国の政府関連機関の
支援を取り付けることに成功し
リスクを取りながら
供給し続けている

カナダやアメリカ、
オーストラリア政府の
支援を得て
年間300万トンの
供給をしている



ガスの高付加価値化を狙った
メタノール製造プロジェクトも
諦めずにやっている

小麦やガスの高付加価値化
LNG開発などそういった
プロジェクトとは訳が違う

ちよつと待て
木崎！

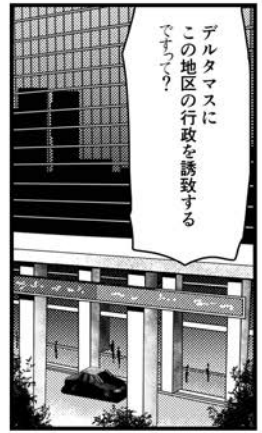
飛行機の時間だ！
俺は帰国する

街づくりは
この国がもつと
豊かになってからだろ
ずいぶん先の話だ

長年某大な外貨をもたらした
LNGプロジェクトも
諦めていない







デルタマスに
この地区の行政を誘致する
ですって？

そうだ

各方面に
かけあってみよう



資金は
自分たちで
何とかしろ！
商社マンだろう！



地元政府に頼らず
ICも自分たちでつくるう
資金は本社に頼らず
自分たちで
何とかしようではないか

ICを我々がつくるのですか？
金を調達するって
プロジェクトは今
赤字ですよ



ここで降りてもまだ
街まで
かなりあるんだな…



この高速道路を
利用するには街から
インターチェンジ
(IC)が
遠すぎるな…

しかし…資金が出るかどうか…
この国も今は苦しいのです



大丈夫！
自分たちの想いを語れば
高くても資金は集まるはずだ

人も金も集まらない
理想なんて
商社マンが
語る理想ではない



そうだ…俺たちは…
商社マンじゃないか…



バンドン工科大学
大学院



国の発展には教育水準の向上と人材が必要です！
この街から将来のインドネシアを支える
知的活動を広げたいのです！

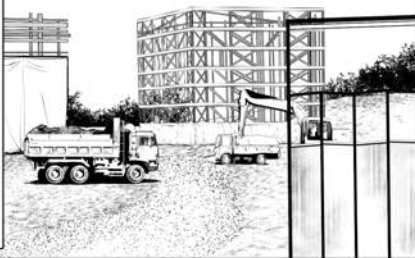
教育インフラを構築し
他の街にはない特色を
デルタマスに持たせる…
この街を文教都市にするために
お力を貸してください！

大学院の教授陣に
デルタマスの魅力と
教育インフラの必要性を訴えた

ぜひ大学院を
デルタマスに！



そしてバンドン工科大学大学院の
誘致に成功着工時期未定
この地に多くの学生が学びにくることになる



次は工業団地だ！



やはり国家の発展の基盤は
モノづくりである
総合商社である双日の
ネットワークをつかって
日系企業を誘致しよう

当初のマスタープランでは
工業団地が入っていなかった
しかしルピアの暴落を目の当たりにした鷹山は
外貨獲得に貢献できる製造業の拠点を築くことこそ
この国の国益に適合し、信じ
早い段階からデルタマスの3分の1の土地を
工業団地として行政に再申請していた



双日は、
円高・日米貿易摩擦を機に
1985年以降
自動車関連プロジェクトの北米支援を
約170件も行った
また90年代の中国の改革開放時代以降にも
多くの日本企業を誘致した実績もあった



そして2004年から
工業団地として販売を開始した



双日は1986年に
日本企業として初めてベトナムのハノイに
駐在員事務所を設立し
様々な分野におけるビジネス展開
そして日本企業誘致なども含めた
これまでの貢献が評価され
ベトナム政府から2006年に
日本企業初の友好勲章を受賞していた



ベトナムのホーチミン近郊ではすでに
工業団地事業を展開
工業団地内には2万人が働いている
我々にはよいモデルがあるではないか！



鷹山さん
インターチェンジ建設と
南部の道路工事を
先に進めていたのが
大きく功を奏しましたね
工業団地の開発を進めるうえで
大きく役立っています

日本でも
米沢さんたちが
タスクフォースチームを
結成して誘致活動
してるみたいですよ！

そうか！



インドネシアの
パンフレットか…

社内でも
タスクフォースチーム結成…
社内の重役にもお願いし
重役とともに
顧客を歩き回ってる
そうじゃないか

その頃日本では—
語学研修でインドネシアに
滞在したことのある
米沢はその経験、知識を活かして
誘致をバックアップしていた



木崎さん…！

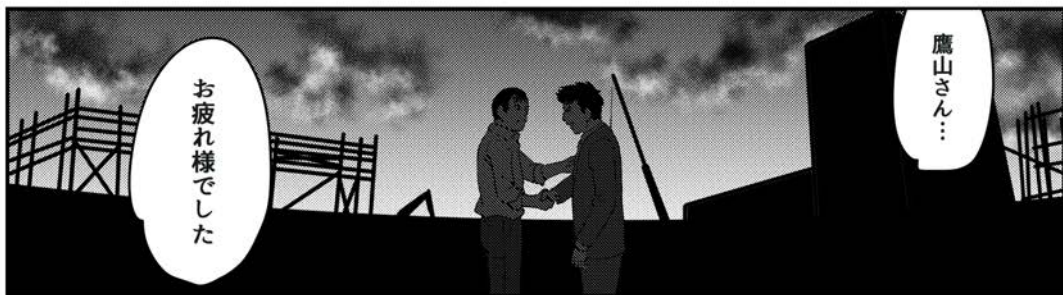
はい！
工業団地として販売を
開始しましたからね！
これから誘致活動を
活性化させていかなきゃ！



米沢さん！
パンフレットが
あがってきました！

よしすぐに確認しよう
会議室あけておけ！









製造業の裾野産業の広がりを
この土地で実現できるな

はい！



一社の
自動車部品メーカーの
デルタマス進出が
他の日本企業にも
影響を与えた

すでに海外進出を行い
当社ともパートナーを
組んだことのある
大手自動車メーカーも
進出を決定！
また部品メーカーなども
次から次へと進出



また、リーマンショック以降
日本製造業は超円高で苦しみ
かつ中国では暴動などが起き
中国以外の進出を模索する
いわゆるチャイナ・プラスワンが
意識されるタイミングでもあった

さらにタイで洪水が発生
多くの日系企業が被災した



この頃：
インドネシアの一人あたりの
GDPが3000ドルを超え
国内のモーターリゼーションが加速する

多くの国・企業がインドネシアを
製造拠点のみならず市場としての
重要性に気付き始めた
双日社内でも全社をあげて
進出誘致活動を行った



電力不足でどこも
節電状態だ…

日本では六重苦だよ

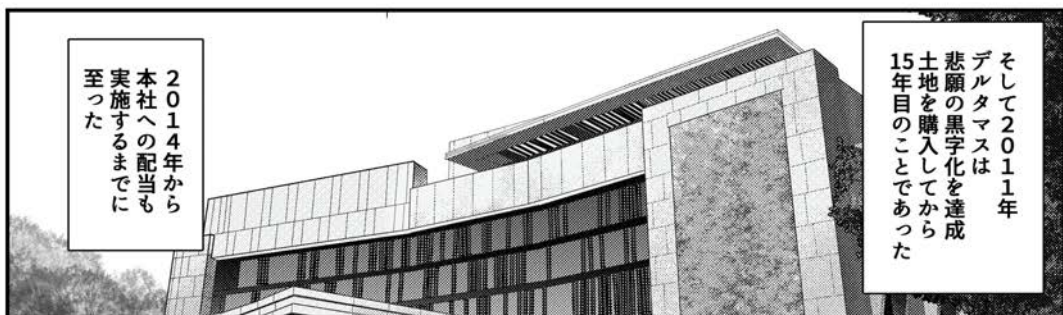


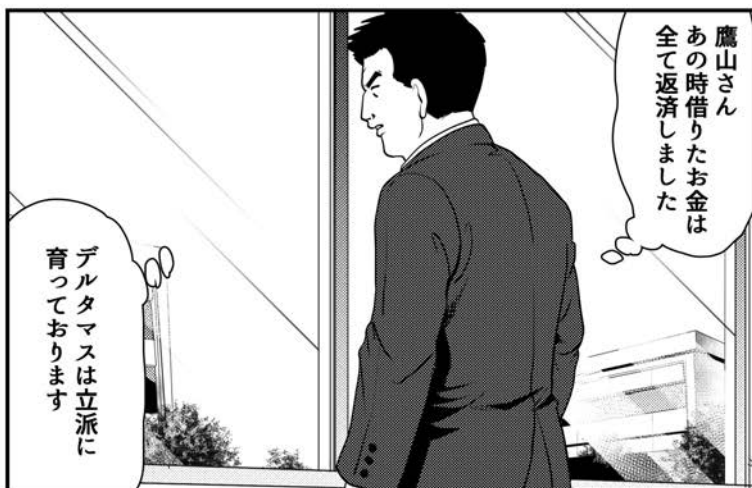
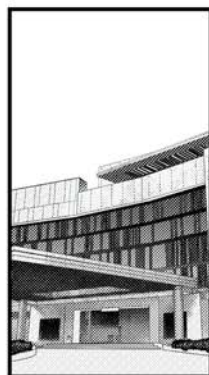
そして2011年
3月11日
東日本大震災が発生

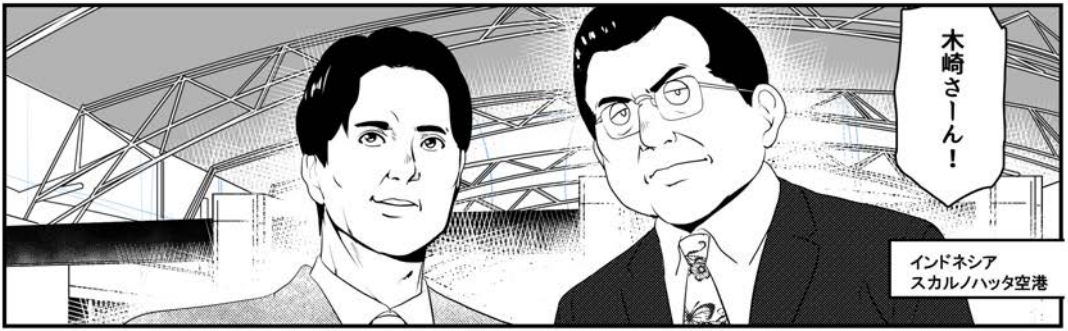




※…Business continuity planning (企業が災害、テロ攻撃などの緊急事態に備え、事業継続のための方法・手段を取り決めておく計画のこと)









いやそれなら
例えばこういうの
どうですか！



小池さんに触発されて
若い社員たちも…そうか…
鷹山さんたちが種をまき…
私たちがそれを発展させ…

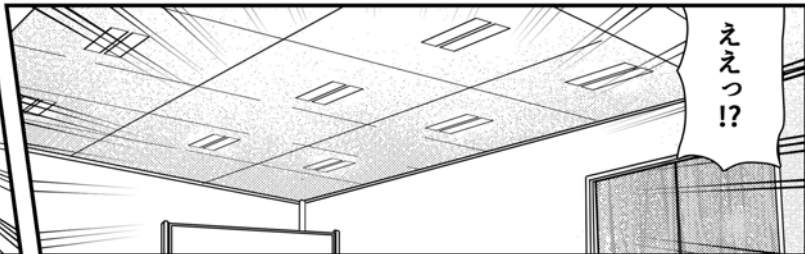
いま待て！
どういっうっは
どうだ？

それをさらに！
継続してくれる…
新しい人材も…
育ってきていたんだな



米沢…
そろそろ…

はい



ええっ？！



米沢さんが
日本へ帰国する？！



ええ…
私は本社に戻ります
…小池さん
後は任せました

わ…
わかりました



小池さん…
私が2000年に
語学研修で
この国へ来たとき
人々はパンは
ほとんど食べて
いませんでした

しかし
大手パンメーカーと組み
双日がパンを普及させた…
これも長年の小麦ビジネスと
日本のパン生産そして
販売ノウハウを持つ
インドネシアのパートナーと
組んだからできたことです

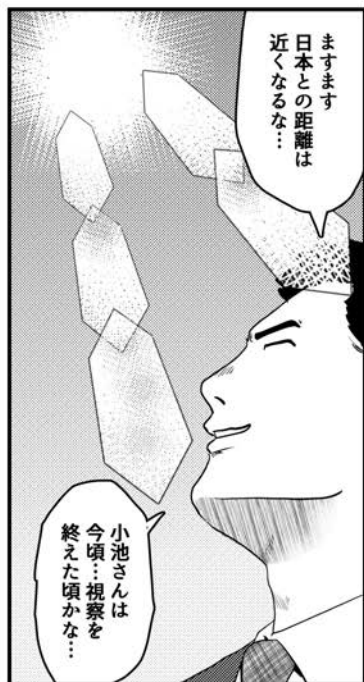


私たちはインドネシアの人々を
よく知っている…
そして素晴らしい
パートナーもいる
そこが強みだと思います

日本と
インドネシア両国のために
われわれにしか出来ない
ことがまだまだあるはずだ！
がんばってください！



お疲れ様…
後は任せて
ください！



インドネシア



小池さん
そういえば
昨日：

スーパーで：

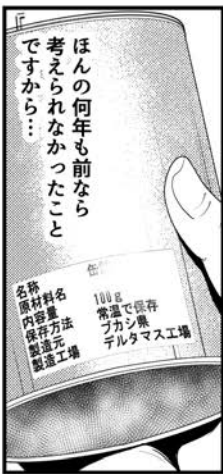
ブカシ県製造と書かれた
商品を見つけたんです

…？



そうですね…
トニーさんは
鷹山さんの時代から
この街を見てきて
いるのでしたね

あの時代は
今より全然何も
ない土地だったと
聞いておりますが…



ほんの何年も前なら
考えられなかったこと
ですから…

名称 100g
原材料名 常温で保存
内容量 プカシ県
保存方法 フルタマス工場
製造元
製造工場



なんでもない
ことですが…

なんだか…
感慨深く
なっちゃいました…

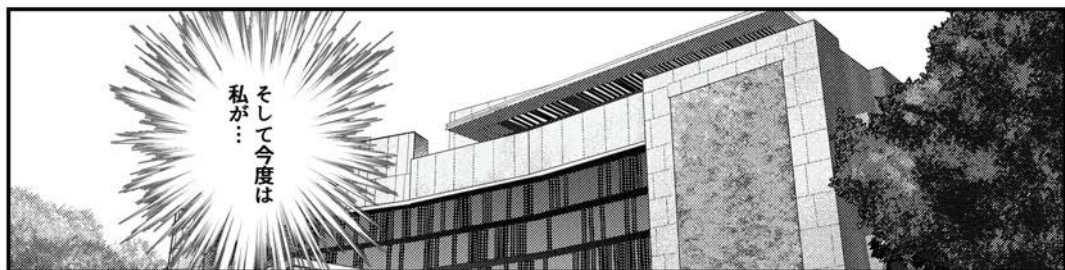


何もなかったところに…
今までなかったものが
生まれていく…
当時描かれた
未来を…私は今見ているんです



見てください…
こんなに多くの車と
オートバイが走ってます

ここも昔は
畑しかありませんでした
今では走っている車は
デルタマスで生産された
ものです！



そして今度は
私が...



その通り

私達の、そして
この国の人たちの
熱い想いが
必ずこのプロジェクトを
良い方向に動かす

ただ私達だけの力では
不十分なところもある



いいか！
全ての社員が
このプロジェクトだ
これが私の会社だ
デルタマスは私達そのものなのだ
という気持ちを持っていれば

必ずこのプロジェクトを
成功させることが出来ると
私は信じている



それを実現させることが
デルタマスにとつての
付加価値を高めることに
繋がっていくんです！

みなさん
力を貸してください！



だから色々な方に
この街に来てもらい
見ていただいて

多くの方のアイデア・発想を
我々に投げてもらいたいとも
思っている



この街の未来と
豊かさづくりには
「正解」はない

双日のスローガン
「New way, New value」
今までにない発想で
この街、インドネシア、
日本に新たな価値をつくりだそう！



デルタマスにとっての価値と
双日にとっての価値
2つの価値を生み出す—
デルタマスはすでに42%の土地の
開発が決定した

果たして
どのような街となるのか？

デルタマスに咲く花

インドネシア巨大都市開発物語

2016年11月 第1刷発行

作 高市雄也
監修 小林正幸、高山真理奈

発行所 双日株式会社 広報部
〒100-8691
東京都千代田区内幸町2-1-1

関連サイト 双日デルタマスシティ
インドネシア巨大都市開発物語
http://sp.sojitz.com/indonesia_deltamas/

無断複写・複製・転載を禁じます。

本作品のストーリーは事実に基づいていますが
登場する人物は架空の人物です。



New way, New value